

「自立した学習者」を目指して

校長 杉林 正敏

21世紀は「知識基盤社会」と言われています。しかし、変化の速さが加速度的で予測困難な現代社会においては、知識は常に「更新」を余儀なくされています。つまり、今日学んだことを基盤にして、その後さらに新しい知識・情報・技術を身につけていくことが社会のあらゆる分野で求められている状況にあるのが現代社会であると思います。ここに学び続けることの大切さを見出すことができます。

今、生徒の皆さんの前には「西高 CAN-DO リスト」があります。ここには、各教科・科目の「学び」を通して「何ができるようになるのか」が示されています。皆さんには、この「学び」の一つ一つがより豊かな人生を送る上で必要不可欠な知識であるということをまずしっかりと認識してほしいと思います。

皆さんのほとんどがいずれは大学や大学院で専門的に学ぶことになるでしょうが、そのきっかけは西高での「学び」の中に密かに隠れています。学び続けていくうちに、きっと皆さんの興味・関心を惹き、心躍らせる事柄に気づくはずで

例えば、古典を学び、古の人たちの考えに共感したり、数学から数の神秘性を知ったり、物理や化学で学んだことを自然界の中で体現し感動したりすることなどです。こうしたことに会うには、一人ではなかなか難しいと思います。そこで導く人と指し示すものが必要となってくるわけです。それが「学び」です。

しかし、学ぶことだけでは十分ではないことを『論語』の中で孔子は次のように言って警鐘を鳴らしています。それは、「学んで思わざれば罔し（くらし）。思うて学ばざれば殆し（あやうし）。」という言葉です。意味は、「先生について書物を習っているだけで、自分で意味を考えてみないと、ぼんやりとして、とりとめがなくなる。また、自分で考えていただけで先生について書物を習わないと、疑いばかり多くなるものだよ。」（貝塚茂樹訳）となります。

この言葉には、「学ぶ」ことは大切だが、学ぶと同時に「思う（考える）」ことではじめて本物の「知」が備わるということが示されています。つまり、まずは学んで知識を得る必要があるが、それだけでは不十分で、学んで得た知識を活用し、自ら考えることで本物の「知」が身に付くようになるということです。

そして、学ぶ一方で、学んで得た知識を総動員して思考を重ねるという作業を繰り返していくと、学び得たことが皆さんの中で融合し、新たな「知」として浮かび上がって来る段階になります。その時こそ、皆さんは「自立した学習者」としての第一歩を踏み出すことができます。

浦和西高校には「自主自立」の精神が校風として受け継がれてきています。その「自主自立」を真に生徒の皆さんが個々に実現していくためには、皆さん自身がまず「自立した学習者」になることが必要であると考えます。この「西高 CAN-DO リスト」が皆さんに「自立した学習者」になる契機を与えることとなれば幸いです。